



ケッコー!

な比内町



比内とりの市
「比内鶏千羽焼き」



比内とりの市
「人間比内鶏永唱コンテスト」



広報市民リポーターだより No.4

リポーター 田中由希子さん(天下町1区)



リポーターの田中さんと
イメージキャラクター
「まねき鶏」

大館市のお隣、比内町。「比内町」と聞くと「比内とりの市」や「トンプリ」を思い浮かべるかたが多いと思います。来年には、大館市との合併を控えています。私自身、詳しく知りませんでした。調べてみると、豊かな自然や歴史のある建造物、史跡がたくさんあり、いろいろな産業も活発だということが分かりました。

そこで、市民の皆さんにも、比内町の素晴らしさを知っていただきたいと思い、比内町をレポートしました。

それでは、比内町の歴史や楽しいイベント、特産品などを紹介していきます。



歴史

比内町は、秋田県北部を横断する米代川の支流である犀川と、引欠川流域に開けた町で、大館盆地の南東部に位置しています。平野部は豊かな土壌に恵まれ、古くから農耕が盛んに行われてきました。また、鉱山資源の宝庫として、室町〜江戸時代には大葛金山から豊富な金が産出され、金閣寺や聚楽第(豊臣秀吉が京都に築いた邸宅)にも献上されたと伝えられています。

「比内」の語源は諸説ありますが、アイヌ語のサツピナイ(乾いた小石の沢)であるという説があります。日本の歴史の中に「ヒナイ」の地名が登場するのは876年と言いますから、今から1100年以上前になります。その範囲は、今の大館市、比内町、田代町はもちろん、県北のかなり広い範囲に及んでいました。時代とともに「火内」「肥内」「比内」などさまざまな表記があったようです。昭和30年に1町3村が合併して比内町が誕生したとき、町の名前はこうした歴史的経緯から選ばれました。

現在、比内町では、比内鶏にことごとくこだわって、特色あるまちづくりを推進しています。